

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	静岡県立大学	拠点番号	E18
申請分野	学際・複合・新領域		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	先導的健康長寿学術研究推進拠点 Center of Excellence for Evolutionary Human Health Sciences		
研究分野及びキーワード	〈研究分野:生活科学〉(健康と食生活)(生活習慣病)(炎症・免疫)(機能性食品)(タンパク質・糖鎖工学)		
専攻等名	生活健康科学研究科:食品栄養科学専攻、環境物質科学専攻 薬学研究科:薬学専攻、製薬学専攻、医療薬学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 木苗 直秀 教授 他 19名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成16年1月現在）を抜粋

<p><本拠点がカバーする学問分野について></p>	<p>生化学・衛生化学・酵素学・有機反応化学・生物有機化学・食品化学・食品機能学・栄養学・臨床栄養学・環境化学・感染制御学・ウイルス学・免疫学・分子生物学・植物資源学・公衆衛生学・疫学・予防保健学・医療情報経済学・放射線治療診断学・薬物動態学・薬物代謝学・薬物送達学・医療薬学・食品安全解析学・薬品分析化学・栄養神経科学・薬効安全性学・製剤設計学・資源生物創成学・環境資源創成学にいたる一貫性を持った新しい学問領域として「健康長寿科学」を創成することを目的としており、本拠点から「薬食同源」の視点をもつ独創力豊かな科学者を育成する。</p>
<p><本拠点の特色及びその目的等></p>	<p>「食薬融合」研究は、①食品と医薬品の相互作用の解明、②高次機能性食品の開発とそれをシーズとした創薬への取り組み、③食薬併用時の機能性、薬効、安全性の高感度評価法の開発に関して両研究科が協同して世界最高水準を目指した研究を進めている。さらに、研究成果の社会還元も視野に入れて、④ヒトへの大規模な介入試験による研究成果の活用に積極的に取り組んでいる。これらの目的を遂行するために、学内および国内外試験研究機関との共同研究および産学官民連携を積極的に推進している。</p> <p>一方、教育面では、両研究科間のみならず他大学院との単位互換制を導入するとともに、食品機能と医薬品の作用を十分に理解でき、それらに関して助言できるアドバイザースタッフおよびその指導者育成を目的としたカリキュラムを実施している。</p>
<p><COEを目指すユニーク性></p>	<p>「食」と「薬」のそれぞれ独自に発展してきた学問領域を統合して、「薬食同源」を共通認識として一大学内で組織的に研究・教育できる体制は、本COE以外には従来存在せず、それ故、本拠点の使命は重いといえる。また、新しい学問領域である「健康長寿科学」の創成、医薬品および保健機能食品の正しい利用方法を国民一般に助言できるアドバイザースタッフおよびその指導者の養成など、他に類を見ないCOE拠点として極めて水準の高い研究と教育を目指している。</p>
<p><本拠点のCOEとしての重要性・発展性></p>	<p>近年、食品が持つ高次機能の研究が進められ、生活習慣病の一次予防に有用な食品成分の科学的知見が集積され、医薬品と食品の垣根が実質的に取り払われつつある。本拠点のCOEとしての重要性は以下に要約される。</p> <p>①機能を有する食品、医薬品およびそれらの併用時の有効性や安全性を研究し、エビデンスを集積・発信する唯一の研究・教育拠点である。② 新たな学問領域である「健康長寿科学」を創成し、高齢化社会に資することができる。③ 食品と医薬品を理解した国際的に通用する次世代の研究者や研究指導者の育成を行い、「健康長寿科学」を世界最高水準に発展させる。</p>
<p><本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果></p>	<p>① がんを含む生活習慣病の進行抑制が期待される有効食品成分の解析・食品設計。② 有効食品成分のトランスレーショナルリサーチによる創薬。③ 有効食品成分の効果の評価指標の開発および有効性の検証。④ 有効食品成分を強化した安全な遺伝子組換え食品の作出技術の開発。⑤ 食薬融合臨床研究に基づくエビデンスの集積と発信などの学術的成果を通じて「健康長寿科学」という新しい学問分野が創成される。「薬食同源」の視点を持つ世界をリードする研究者の輩出や、医療現場・日常生活で、医薬品及び食品による効率的な疾病治療と健康増進をアドバイスできる人材の輩出を通して、国民の健康的な生活をサポートするための多くの情報発信がなされる。</p>
<p><背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等></p>	<p>生活習慣病やがんなどの予防および治療面からの取り組みでは、原因遺伝子解明を基礎とした病因の解明から予防・治療法開発に至るトランスレーショナルリサーチの将来性が期待される。高齢化社会を迎え、現在検討されているコストコンシャスな医療を実施する上で、必要なエビデンスを提供する。「薬食同源」の立場からの研究は、合理的な機能性食品・医薬品の開発に結実し、知的財産の蓄積、医療のコスト低減を実現する。エビデンスを基に、健康長寿のための情報発信と、医薬品と保健機能食品の適正な利用方法を助言できるアドバイザースタッフには社会的貢献が期待される。以上により、本拠点形成は我が国の経済・厚生基盤に有効に貢献する。</p>

機 関 名	静岡県立大学	拠点番号	E 1 8
拠点のプログラム名称	先導的健康長寿学術研究推進拠点		

◇ 21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される。

(コメント)

「食と薬」(栄養化学・薬学)の学問領域を統合し、社会的要請の強い合理的な健康維持に関与する機能性食品・医薬品の開発、医療のコスト低減につながる「健康長寿科学」という新しい学問領域を構築し、拠点化していくという当初の計画は順調に実施され、今後の成果も十分期待できると評価される。

敢えて言えば、さらに強固な拠点を形成するために、他の研究機関との連携・分担の仕組みづくりを進め、また、「健康長寿科学」分野の体系化を確立して、世界に情報を発信できる拠点形成に努められたい。